



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 広島県立神辺旭高等学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 1 月 24 日 (火)
- 3 対象 : 1・2 年生 480 名
- 4 派遣オリンピック : 齋藤信治さん (バレーボール 北京オリンピック日本代表)
- 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 1 月 24 日 (火) に、広島県立神辺旭高等学校にて 1・2 年生 480 名を対象とし、バレーボール 北京オリンピック (2008 年) 日本代表の齋藤信治さんに「オリンピックへの道」をテーマにご講演いただきました。

齋藤さんは中学校 3 年生のときにテレビで W 杯を観たことがきっかけで高校生からバレーボールをはじめたものの、高校では県大会に出場することすらできず、自身の競技人生も高校までで終わりにしようと考えていたそうです。しかし、高校最後の試合をたまたま見に来ていた東レの監督からチームに誘われたことや、さらにその後、基礎づくりのために進学した日本体育大学時代、ユニバーシアードの補欠として合宿に行った際に、隣で練習していた日本代表チームの監督に声をかけられ、急に日本代表のメンバー入りをするようになったことなど、長い競技人生の中にいくつかの大きな転機があったことについてお話しをされました。

続けて齋藤さんは 14 年間に渡る日本代表時代について、決して良い思い出だけではなく、ほとんどは苦しさや悔しさとの戦いであり、一度はバレーボールを辞めようと実家に逃げ帰ったこともあったと振り返りました。しかし、多くの人に支えられて自分は競技をできていたことに気づき、毎日毎日うまくなりたい一心で必死に練習をしてきたことを思い返し、諦めずに最後の瞬間まで頑張ろうと心に誓って改めて努力を続けられたと言います。そうした苦しい日々を乗り越えて、北京オリンピックの出場を決めた時は本当に嬉しかったとオリンピック出場に至るまでの様々な経験や思いをお話しされました。

また、様々な挫折を味わいながらも壁を乗り越えて出場を果たしたオリンピックの舞台は夢のように素晴らしい場所だったと言い、その経験から齋藤さんは、2020 年にはもう一度、マネージャーでも、ボランティアでもどんな形であってもオリンピックの場所に立ちたいとご自身の今後の夢をお話しされると同時に、講演を聞く高校生に向けても、いろんな形で 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに興味を持ち、それぞれの形で関わりを持つことで、オリンピック・パラリンピックの雰囲気を感じてほしいと語られました。そして最後は、周囲への感謝の気持ちを忘れずに、やり遂げれば必ず目標は実現すると信じ、諦めずに努力することが大切であることを生徒へのメッセージとして伝えられました。

6 授業の様子



「オリンピックへの道」をテーマにご講演された齋藤信治さん



長きに渡る競技生活を振り返りながら、努力することの大切さを生徒に伝えられました



事業実施後のアンケートでは、「自分も周囲への感謝を忘れずに何事も頑張ろうと思った」、「自分を信じ、周りを信じ、諦めずに頑張ることが大切だと感じた」、「オリンピックに出る人は才能のある人ばかりだと思っていたけど、本当は努力を続ける人や自分の信念を貫ける人がオリンピックに出ることができるのだと感じた」など、高校時代までは全く無名の選手だったという齋藤さんの話を聞き、驚くと同時に、諦めずに努力することの尊さを学んだといった旨の意見が多く挙げられました。

また、「オリンピック・パラリンピックにはボランティアやスタッフとしての関わり方もあることを知った」、「2020 東京オリンピック・パラリンピックではボランティアをしてみたい」、「いま学んでいる語学を活かしてボランティアとして携わりたい」、「広島は東京からは遠いからといって何もしないのではなく、自ら進んで積極的に関わるようにしたい」など、齋藤さんがお話しされたオリンピック・パラリンピックとの関わりについて、自身の将来に照らして具体的に目標を思い描く生徒も多く見られました。